

初！乗ってきました！ くしろ湿原ノロッコ号！

釧路湿原は、北海道の大地がそのまま息づくダイナミックな自然の宝庫。朝霧に包まれた湿原にタンチョウの姿が浮かび上がる瞬間は、まるで映画のワンシーンのよう。蛇行する釧路川と広がる葦原（よしはら）がつくる雄大な景観は、訪れる旅人を一気に非日常へと連れ出してくれる。ここでしか味わえない“自然の迫力”が旅の記憶を鮮やかに彩る。

まだ乗ったことない方には、ぜひおすすめします！リピートもいいですね！わりと見慣れている鹿たちも、なんと不思議なことに、ノロッコ号から見ると別の世界観で見る事ができますよ(*^-^*)とても楽しかったです♪



塘路駅前には、有名なハンバーガーショップやいもだんごなどが食べられるお店もあって、自然の中でのんびり味わうのも、楽しみの一つになりますね♪ また乗れるときは、絶対に食べる時間も取れるようにしたいです！

大地の雄大さと自然の豊かき。低温であり寒暖差がない気候。派手じゃないけど、多分日本一エコな土地

7月の陽射しを受けて、ノロッコ号はゆっくりと釧路湿原を横切っていく。窓から流れ込む涼やかな風に、観光客たちは思わず笑みをこぼす。草原の向こうにタンチョウの姿がちらりと見えたが、草むらの陰にいたために見えた！と歓声を上げる人もいれば、さきどき「さきどき？」ときよろきよと首を伸ばす人もいて、車内には柔らかな笑

顔で手を振ってくれる。別のグループは時間ぎりぎりに滑り込むように現れ、オールを掲げて応えてくれた。車内の子どもたちと一緒に大人も手を振り返し、湿原の静けさに人の温度が重なる瞬間が続く。

途中、草原の水場にエゾシカの姿があり、車内から小さな歓声が上がる。ノロッコ号は基本ゆっくりだが、思いのほかスピードを上げる区間もあり、風が一気に強くなると観光客たちは驚きながらも楽しげに身を乗り出す。一方で、運転士さんが「ここは見せたい場所なんです」とばかりに速度を落としてくれる場面もあり、湿原の奥行きがより深く感じられる。

ガイドの方が「この列車からヒグマを見つけたこともあるんですよ」と語ると、車内は一瞬、どよめきに包まれた。ノロッコ号の旅は、湿原の鼓動と人々の心をそとと重ね合わせてくれる、春から秋までの特別な時間だ。現行の列車は、今年の運行が最後ということなので、気になっている方はお早めにご予約を！



車内から流れる景色を写します！見どころばかりで大忙しです！



途中の踏切でノロッコ号を待ち構えていた撮り鉄さんたち！

株式会社 ジャパン・プランニング

〒085-0057 釧路市愛国西3-1-15

Tel:0154-38-7067 Fax:0154-39-2336

Web : www.j-planning.com